

予防接種を避けたい期間の目安と考え方（2017）

〔年齢や接種の必要性によって、さらに医師の考え方によっても多少、異なります。〕

疾患名	本人が罹患した場合	接触した場合〔２次感染〕	本人 ：その家族や友人
麻疹〔麻しん〕	診断日から４～５週間ほど 〔不活化は４週、生は５週〕	３日以内ならすぐ接種 １週間以内にグロブリンも可	学童以上は抗体検査〔PA法・EIA/G法・NT法〕して、陰性ならすぐ接種 〔PA:256倍未満、EIA/G: 8.0未満、NT: 4倍未満〕
風疹〔三日ばしか〕	診断日から４週間ほど	間に合わない ２週間後の発症時の行動に注意	学童以上は抗体検査〔HI法〕して、陰性(16倍未満)ならすぐ接種 特に妊婦は注意 妊娠希望女性は32倍以上必要で濃厚接触を避ける
おたふくかぜ 〔ムンプス、流行性耳下腺炎〕	診断日から４週間ほど	間に合わない ２週間後の発症時の行動に注意	学童以上は抗体検査〔EIA/G法〕して、陰性〔6.0未満〕ならすぐ接種 せめて5.0以上あれば重症化は避けられるかも
水痘〔水ぼうそう〕	診断日から４週間ほど	３日以内ならすぐ接種 １週間後から５日間の予防内服も可	学童以上は抗体検査〔EIA/G法・IAHA法〕して、陰性ならすぐ接種 〔EIA/IgG: 4.0未満、IAHA: 4倍未満（乳幼児は2倍未満）〕
伝染性紅斑 〔りんご病〕	診断日から２週間ほど	診断日以降の接触は罹患しない 直前の接触は１～２週間観察	症状発現直前には感染力がある。 特に心配ないが、妊婦は接触を避ける
手足口病	診断日から２週間ほど	診断日以降の感染力は弱い 直前の接触は１～２週間観察	症状発現直前には感染力がある
突発性発疹	診断日から２週間ほど	罹患しない	罹患しない
流行性角結膜炎	診断日から１週間ほど 症状が消失するまで	よく手洗いをする ２～３日経過を見て発症がなければ可	よく手洗いをする
咽頭結膜熱	診断日から１週間ほど 症状が消失するまで	よく手洗いやうがいをする ２～３日経過を見て発症がなければ可	よく手洗いやうがいをする
ヘルパンギーナ	診断日から１週間ほど 症状が消失するまで	診断日以降の感染力は弱い ２～３日経過を見て発症がなければ可	よく手洗いやうがいをする
乳児嘔吐下痢症 〔ロタ、ノロ、その他〕	診断日から１週間ほど〔ロタは4週間〕 症状が消失するまで	よく手洗いをする ２～３日経過を見て発症がなければ可	よく手洗いをする
インフルエンザ	解熱後１週間ほど	よく手洗いをする 人込みを避ける ２～３日経過を見て発症がなければ可	よく手洗いをする 人込みを避ける うがいは無効 マスクは咳エチケットと喉の潤いのため
マイコプラズマ肺炎	症状が消失するまで	特に妨げない	特に妨げない
百日咳	症状が消失するまで	DPT３回まで未接種の乳児は予防内服 特に妨げない	DPTを確認して対応する 婚活・妊活計画にDPTを追加 S44年以降の生まれは成人は、DPTで1回追加する
溶連菌感染症	症状が消失するまで	特に妨げない	特に妨げない
熱性痙攣	初回発作は１ヶ月程度、遅れないこと 発熱の原因の症状が軽快すれば接種可 高熱性疾患〔麻疹・ムンプス・水痘・インフルエンザ〕は罹患前に早々に接種する	特に妨げない 家族歴を考慮して、罹患前には接種する	特に妨げない 家族歴を考慮して、罹患前には接種する
グロブリン大量療法 〔川崎病〕 〔血小板減少性紫斑病〕	麻疹は12ヶ月以上〔せめて6ヶ月以上〕 その他の生は３～６ヶ月以上 BCG、ロタ、不活化は影響しない 経過観察に３ヶ月間は必要	罹患しない	罹患しない